



ムダ話は無意味ではない！！ ちゃんと役立つ！！

クライアント企業様が運営している直営店舗で「リシュルル」という名前のお店があります。若い女の子の可愛い服を販売しているお店ですが、この「ルル」というのは「おしゃべりする」という意味があります。「おしゃべり」は「さえずり」と同じ意味だと言われていますが、来店されたお客様がぺちやくちやおしゃべりをしながら買い物を楽しんでもらうという社長の思いからそのような名前にされたそうです。

ところで、おしゃべりはムダ話であり、役に立たない話だということでそれを禁止している会社もあります。社長が「ムダ話」を厳しく禁止しているのです。本当に「おしゃべり」はムダなのでしょうか？

およそ人間の会話で「ムダ話」でないものはあるのでしょうか？その典型が井戸端会議と言われるものですが、会社の会議や公の会議など世の中に存在している会議は、考えようによってはほとんどが「ムダ話」であるといっても差し支えありません。

しかしながら、単純にそうと決めつけても良いのでしょうか？

「ムダ話」は人間関係の潤滑油であり、新しい知識の獲得や創造性へのヒントなども得られます。議論も深まります。更にはお互いをよく知り合うということから、何か事が起こった時にお互いをカバーし合う要素も高まると言われています。

これらは「ムダ話」の効能だと思います。

つまり「ムダ話」はちゃんと役に立っているのです。同僚や友達や恋人や親子、夫婦の間のムダ話は決して無駄なことではないということです。誰ともモノを言わず、パソコンを眺めていたり、ゲームをしたり、スマホをいじくっているよりはどれほど有益なことか分からないですね。

私も経営コンサルタントの端くれですが、ムダ話をあまりしない会社は新しい事へのチャレンジが無くなっていくという法則があるように思っています。人間関係が希薄になるとお互いに相手を許すという許容度が小さくなり、失敗を恐れてリスクのあることにチャレンジしなくなっていくのです。

当然、会社は衰退していきます。そのように考えると「ムダ話」は会社の存続を左右していくほど重要なことになってきます。

